

平成 30 年度 記者懇談会（第 3 回）の記録

- 日 時 平成 30 年 6 月 27 日（水）午後 3 時 30 分
場 所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数 5 人
同席者 飯川副市長、若山副市長、総務部長、経済部長、建設部長、
健康福祉推進担当次長、教育部次長、教育施設課長
次 第 1 第 56 回北海道障がい者スポーツ大会について
2 2018 いわみざわ彩花まつりについて
3 STV 創立 60 周年イベントについて
追加 コンクリートブロック塀の設置状況について
4 その他について



1 第 56 回北海道障がい者スポーツ大会について

説明内容

(市長)

第 56 回北海道障がい者スポーツ大会の開催についてご説明をさせていただきます。

来月 7 月 22 日（日）でございますが、北海道における障がい者スポーツ最大のイベントとなります「第 56 回北海道障がい者スポーツ大会」を岩見沢市と美唄市の 2 市で開催いたします。

岩見沢市での開催は、昭和 40 年、昭和 60 年に続いて 3 回目となりますが、来年 2 月には冬季大会も岩見沢市で初開催することとしておりますので、夏季・冬季を同時に開催するのは、大会史上初めてということでございます。

今回、岩見沢市では、陸上競技とサッカーの二種目を実施し、美唄市ではフットベースボール、車椅子バスケットボール、バスケットボール、ソフトボールの四種目を実施いたします。

選手の募集ですが、5 月に終了したところでございます。全競技あわせて、777 名の参加申し込みがあり、前回、胆振で開催された大会は 691 名の参加でございましたので、多くの方にご参加いただくこととなりました。

岩見沢市の競技実施に当たりましては、競技団体から審判として 50 名の方にご協力いただくほか、80 名のボランティアの方にご参加いただいております。多くの市民のお力添えにより大会が実施されることとなります。

このようなスポーツ大会の開催を通じまして、ノーマライゼーションの理念が地域に広がっていき、誰もが自分らしく暮らせる共生社会が実現することを期待しているところでございます。

質疑応答

(プレス空知)

わかれば構わないのですが、岩見沢市民で参加される方は 777 人中何人くらいでしょうか。

(市長)

申し訳ございませんが、手持ち資料にその集計がありませんので整理してあらためて。

(プレス空知)

ボランティアのスタッフの方なんですけれども、どのような人たちが参加されるのでしょうか。例えば、高校生とか大学生とかこういうところから来てくれますよという内訳です。

(健康福祉推進担当次長)

福祉施設の職員さんで自主的にお手伝いいただけるという方ばかりです。

(プレス空知)

例えば、教育大生や緑陵高校の総合コースの生徒はボランティアとして参加されないですか。

(健康福祉推進担当次長)

ボランティア以外に教育大学とか緑陵高校のサッカー部とか 40 名をボランティアとは別にカウントしております。競技の手伝いということで。

(プレス空知)

「第 56 回北海道障がい者スポーツ大会」という資料の下に記載された(ボランティア)という箇所が読み取りづらいところがありましたので、そこを整理できればと思って聞いたのですが。

資料の「陸上競技：競技団体 40 名、その他 50 名(緑陵・光陵・ボラセン・日赤等)計 90 名」と書かれた部分はどういうように考えたらいいのでしょうか。

競技団体にカウントされている人数が「福祉施設」あるいは「大学の運動部で活動している学生等」

(健康福祉推進担当次長)

ボランティアでは、陸上競技だと、陸上競技団体が 40 名、その他で 50 名、その 50 名の中は緑陵・光陵・ボランティアセンター・日赤等で 50 名です。サッカーだと、競技団体が 10 名、その他が 30 名、その 30 名につきましては緑陵・光陵・教育大で 30 名となっております。

(プレス空知)

競技団体は、陸上協会やサッカー協会だと思いますが、「岩見沢」と「空知」のどちらでしょうか。

(健康福祉推進担当次長)

ちょっと今は把握しておりません。(注：陸上競技の団体は空知陸上競技協会と岩見沢市陸上競技協会、サッカーの団体は岩見沢サッカー協会)

(プレス空知)

ボランティアのその他の内訳に入っている学校の参加者は、部活動に在籍している人たちでしょうか。そこまでの線引きは難しいですか。

(健康福祉推進担当次長)

そうですね。

2 2018 いわみざわ彩花まつりについて

説明内容

(市長)

岩見沢市の五大祭りの一つであります「いわみざわ彩花まつり」でございますが、今年は 7 月 9 日(月)から 14 日(土)までの 6 日間にわたりまして、岩見沢市観光協会が主催して、あやめ公園、バラ園、中心市街地、駅東市民広場などにおいて開催されます。

主な内容でございますが、あやめ公園では、168 種 12,000 株のあやめや花菖蒲を、また、いわみざわ公園バラ園におきましては 630 種 8,800 株のバラを鑑賞していただきます。現在のところ、バラの一番花は少し咲いておりますが、見頃はこれからとのことではございました。また、あやめ公園ではあやめはピー

クを過ぎ、花菖蒲はちょうど彩花まつりの頃に見頃を迎えるとのことでございます。

また、14日（土）には、バラ園におきまして、「野だて」や箏曲の演奏、盆栽の展示、また、ウォークラリーや弦楽四重奏（これは教育大生による演奏でございます）、バラの販売なども予定されております。また、あやめ公園におきましては、毎年恒例となっているあやめ団子の販売やあやめの株の販売を行う予定とのことでございます。

なお、バラ園では6月23日からローズフェスタが開催されており、バラ園での彩花まつりの各種イベントは、こちらとの共催となっているところでございます。

さらに、市内中心市街地を会場といたします「観光踊りパレード」は、7月13日（金）午後6時10分から開会式を行い、その後、パレードを実施する予定でございます。現在のところ29チーム1,298名が参加を予定しているとのことございました。なお、コースにつきましては昨年と同様でございます。

また、同じ13日でございますが、新しい企画として、駅東市民広場公園におきまして「まちなか夜市音楽祭」が開催されます。こちらにつきましては、春から秋にかけてぷらっとパークで月に1回開催していただいている「まちなか朝市」の実行委員会が実施するものでございます。今年は通常の朝市の出店者のほか、焼き物の露店の設置、またアマチュアバンドの演奏を行い、お祭り広場とのコラボにより、岩見沢の夏の夜を盛り上げるとのことございました。

また、「まちなか朝市実行委員会」では、将来は、ジョインアライブの前夜祭をまちなかで行うことも検討しているということございました。

なお、今年から彩花まつりにおける花火の打ち上げは取り止めとなりましたが、「まちなか夜市音楽祭」の中で、子どもの来場者などに手持ち花火を提供し、身近に花火を楽しんでいただくことを検討しているとのことでございます。

昨年の彩花まつりには、約74,000名の方々が来場されました。今年も天候に恵まれ、多くの方々にご来場いただけることを期待しているところでございます。

質疑応答

なし

3 STV 創立 60 周年イベントについて

説明内容

（市長）

次に、札幌テレビ放送 STV の創立 60 周年事業でございますが、7月27日（金）、28日（土）の2日間開催されます。60周年記念事業は、岩見沢市と札幌市で開催され、札幌市では美術展が中心、岩見沢市では27日、28日にグリーンランド遊園地で STV 番組に出演しているタレントやアナウンサーが集合して、特別

番組公開生放送「どさんこみらいフェス」が開催されます。このイベントは無料で、当日はグリーンランドの入場も無料となります。

また、28日（土）には、キタオンでは「気志團」や「けやき坂 46（ひらがなけやき）」など 10 組のアーティストが出演する夏フェスである「サニートレインレビュー」が開催されます。

両イベントで約 40,000 人の集客を予定しているとのことでした。

岩見沢市で STV の創立 60 周年記念事業が行われることになった経緯ですが、ジョインライブなどの野外イベントが開催されているキタオンが施設として近隣にない特長と、野外音楽フェスの運営ノウハウ及び開催実績を持っていることが挙げられたようでございます。また、関係者の中には岩見沢のご出身の方もいらっしゃる、岩見沢でのイベント開催に向けて、STV 全社を挙げて、熱心に取り組んでいただいているところでもございます。

同じく STV の創立 60 周年記念事業といたしまして、去る 5 月 12 日には道内で 18 年ぶりとなる「笑点」の公開収録が行われ、6 月 10 日と 17 日に全国放送され、「岩見沢」の名前が PR されたところでもございます。

現在、STV では岩見沢市の様子やイベントなどにつきまして、継続的に番組でオンエアされております。また、7 月のイベント当日には、岩見沢の観光情報の発信や岩見沢の特産品の販売を行うブースも設けられることとなっております。

このイベントを契機に、岩見沢をもっと知っていただく、あるいは今後の岩見沢の観光入込客数の増加にも繋げていきたいと期待しているところでございます。

質疑応答

なし

追加 コンクリートブロック塀の設置状況について

説明内容

（市長）

追加で、コンクリートブロック塀の設置状況について、報告させていただきたいと思っております。

6 月 18 日に発生した大阪府北部地震によりまして、大阪府高槻市の小学校のブロック塀が倒壊し、登校中の女子児童が亡くなられた事故の発生を受けまして、岩見沢市教育委員会では、翌日の 6 月 19 日から現地調査を行い、市内小中学校と緑陵高校にはブロック塀が無いことを確認いたしました。

なお、北海道教育庁からの通知は 6 月 20 日にいただいたところでございます。

通学路の安全確保につきましては、通学路の点検を現在実施しているところでもございまして、地震が発生した場合の初期対応などについても児童・生徒に指導するように全小中学校に教育委員会から指示をしております。

また、「学校以外の教育施設」も含めた「市の所管施設全て」について調査を実施いたしましたところ、市が所管する 9 施設にブロック塀がございました。

9 施設のうち 8 施設につきましては、建築基準法施行令に適合しておりますが、「旧競馬場跡地」には「現在の」建築基準法施行令に適合しないブロック塀が見つかりましたので、6 月 22 日にブロック塀に近づけないようにバリケードを設置いたしました。今後は早急にブロック塀の解体撤去と新たな塀の設置を進めてまいります。

さらに、企業や一般市民のブロック塀の所有者等につきましては、既にホームページで注意喚起を行い、広報 8 月号でも周知する予定でございます。

なお、問い合わせ先につきましては、建築士事務所協会空知支部（金田設計事務所内）にございますが、そちらと建築課建築指導係にも総合窓口を開設いたしました。

質疑応答

（毎日新聞）

通学路は点検中ということですが、いつまでに終える予定ですか。

（市長）

予定では、7 月 13 日までに全ての点検を終えるということを経済委員会から報告を受けています。

（毎日新聞）

現状で何か問題があるところがありますか。

（市長）

現状で問題はありませんが、ブロック塀について安全点検するというところでございます。

（毎日新聞）

通学路と言えば、いろいろ経路があると思いますが。

（市長）

学校ごとに通学路を指定していますので、そこを中心に、ということになるかと思えます。

4 その他について（記者からの質問）

質疑応答

（北海道新聞）

シティプロモーションの一環として、ラジオドラマの収録が始まりましたけど、狙いや期待することについて市長からぜひコメントをいただけたらと思います。

（市長）

シティプロモーションは、様々な媒体を通じて、岩見沢の良さや取り組みなどを知っていただくということでございます。

札幌圏の子育て世代の女性をターゲットとして、岩見沢の子ども・子育て支援などを紹介しながら、番組としてお聴きいただき、AIR-G'さんに作っていただくということで、今、担当が番組制作に向けて取り組んでいるところでございます。

7月3日から「火曜ラジオドラマあゆみさん」として、毎週火曜日の午後2時45分から10分間の番組を放送します。

番組内容ですが、行政情報のお知らせではなく、ターゲットである子育て世代の女性に向けまして、岩見沢市の子育て環境や健康づくりなどをテーマに、番組を聴いた人が「そうなのか!」「こんなことがあるよね」と共感できるような内容や雰囲気重視の番組でございます。

ちなみに7月の放送分で採り上げるテーマでございますが、7月は5回予定されておりまして、1週間に1回ずつ3日、10日、17日、24日、31日でございますけれども、「保育所の入所運営」とか「乳幼児等医療費の助成」、「留守家庭児童対策」、あとは「えみふる」で2コマとなっております。

また、この番組につきましては、市民の皆さま向けにFMはまなすで再放送をする予定でございます。7月10日から、毎週火曜日の午前10時40分からということでございます。

さらに、FMはまなすの放送後には、市のホームページからもストリーミングで聴くことが可能、ということでございます。

(北海道新聞)

シティプロモーションやラジオドラマに対して期待することというのは。

(市長)

さきほど申し上げたとおり、岩見沢の子ども・子育て支援環境などを、とくに札幌圏の方々にお聴きいただいて、岩見沢のPRを行い、そのことが岩見沢の良さの理解に繋がればということでございます。

また、そのことが契機となって「岩見沢に行ってみたい」あるいは「岩見沢に住みたい」と思っただけのことも重要な狙いの一つだと思っています。

ただ、初めての取り組みですし、まずは岩見沢のことを広く知っていただくことが重要かなと思っています。

(北海道新聞)

これは、札幌圏から子育て世代が入ってこさせるための施策だと思うのですが、逆に岩見沢からの人口の流出を防ぐような取り組みはありますか。

(市長)

シティプロモーションにはいろいろな考え方がありまして、岩見沢市の考え方の一つとして「シビックプライド」というものがあります。

対外的には、岩見沢のリスナーの方も含めて、ドラマ仕立ての「あゆみさん」ということで岩見沢の話題や取り組みを盛り込んだ番組を聴いていただく。

一方、「ザワトーク」を一昨年から継続して開催しておりまして、岩見沢市民にも市の取り組みを知っていただくだけではなくて、ご意見をいただくというような取り組みをしているところでございます。

(北海道新聞)

さきほど「岩見沢のリスナーの方も含めて」というようにおっしゃいましたが、今回のラジオドラマは市民に対しても岩見沢の魅力を知ってもらうということですか。

(市長)

ラジオですから札幌でしか聴けないものではありませんので、岩見沢でもAIR-G'を通して聴くこともできますし、先ほども申し上げたとおり、市民向けにはFMはまなすで再放送していただくと。それから、市民に限らずですが、市のホームページでも聴取いただくことを予定しているところです。

(毎日新聞)

市立病院の改築のことですが、今年度中には基本構想を作るとは思います、今後のスケジュール感はどうなんでしょうか。決まっていますか。

(市長)

決まっていません。

(毎日新聞)

基本構想が決まっていて、普通、次は基本計画ということになるのですが、それもまだ？

(市長)

どういう規模のもので、どういう機能を持たせて病棟の再編をどうするのか。例えば、病棟の入院患者数をどうするのかとか、そういったことの基本構想を踏まえた上での検討になりますので、基本構想ができたからすぐ基本計画ということにはならないんじゃないかなと思います。

(毎日新聞)

今年度に基本構想ができたなら、次に基本計画の策定に移行すると思うのですが、それを来年度にやるかどうかはまだ？

(市長)

決めてはいません。まずは基本構想の中でこういった機能を取り込んだ病院を目指すのかというところからスタートしようと思っています。

(プレス空知)

先日行われた防災会議について、市長の見解を教えていただければと思います。

地域防災計画の内容の修正において、「食料供給計画」で炊き出しを提供する施設を学校給食共同調理所の統合に併せて修正しますと書いてありました。

修正前だと35,300食。ご飯だけ、パンだけというのも含めてですけど、合算すると35,000食以上記載されていましたが、修正後では新調理所で7,000食にしかなくなってなかったんですね。ページで言えば25ページだったのですが。

今、この資料が手元になかったとしても、炊き出しの量が約35,000食から7,000食に大きく減ってしまう修正を行ったということで、万が一何かがあったときの…。

(市長)

前の調理所 3カ所とも炊き出し機能はないはずですが。

(プレス空知)

最大規模として書いてあって。

(市長)

それは流通在庫とか？

(プレス空知)

私の目が間違っていなければ、最大量ということで食数が書いてあったと思うのですが。

(市長)

資料を持ってきますが、以前の 3カ所に分散していた学校給食共同調理所に炊き出し機能がなかったはず。

今、資料を確認してお答えさせていただきたいと思いますが、学校給食共同調理所には炊き出し機能、ましてや避難所に輸送することも含めて、そういう機能はなかったのですが。それは何日か分の数字ですか。

(プレス空知)

私も細かく突きつけられるとですね。むしろ、私でなくて皆さんたちで作っている計画なので。

(市長)

私の認識は、一度に 7,000 食の炊き出しができるということ。1回でね。そういうふうに理解していましたが。これから資料を見て確認させてください。

(プレス空知)

その話は資料が届いてからでかまいません。

もう 1 点。5 月の総務常任委員会の中で美流渡小中学校の統合についての説明がありました。なかなか話が進んでいなかった中で、保護者を中心に統合の話を開いてほしいという要望が上がってきて、前に進めることになったという話を聞いたのですが、東部丘陵地域で振興を進めようという中で、一方で小中学校の統廃合のような話が出てきていることについての市長の見解または思いを聞かせていただければと思うのですが。

(市長)

東部丘陵地域の振興といった意味では、例えば地域おこし協力隊員を採用して、張り付けるという言葉がいいのかどうかはわかりませんが、教育問題と地域政策を分けて考える必要があるんじゃないのかというのが私の認識です。地域の方々にとって学校が統廃合の結果なくなるというのは、いろいろ大きな影響もあるでしょうし、また、小規模校の良さもありますし、その分デメリットもありますし。児童生徒ファーストで考えたときに、もっと子どもたちにとっていい環境で岩見沢市で教育を受けてもらいたいという意識はあります。それと、学校がないから地域が廃れるというのではなくて、地域の活性化は別の観点でしっかりと取り組んでいく。そういった意味ではメープルロッジもリニューアルいたしましたけれども、交流拠点としての機能が上がったということと併せて、その交流機能を例えば美流渡に波及させるとか、いろんな側面で

地域の方々、住民の方々のアイデアもいただきながら、地域振興に取り組んでいくと私は理解しています。

(プレス空知)

わかりました。一旦、一時棚上げになったときの背景として、住民から学校の統廃合は地域振興と表裏一体のような形で考えていくべきでしょうという中で、教育委員会と話の掛け合いがあったかなというのは私の記憶だったものからです。

(市長)

そういうご意見があるのは私も理解しているところですが、教育環境の充実をさらに目指すためには、新たな環境の中で子どもたちの教育を保障するっていうことも選択肢の一つなので。学校がなくなるから地域が廃れるということよりは、地域の子どもは地域で育てていただくということを基本としながらも、より良い教育環境を整える。そして、地域の振興は、もっと別な形と言えますかね。地域政策として行っていくということではないのかなと思っています。ただし、それは地域の方のご理解があつてのことです。地域が反対しているのに無理やりとか数合わせの理論でとかそんなのではなくて。そういった経緯もあつて、ペンディング状態で棚上げの中でいろいろ議論が進められたと理解しています。

(食料供給計画について)

過去の食料供給計画の中で、例えば古い岩見沢学校給食共同調理所の最大能力として 11,000 食と書いてありますけれども、そこまでの実際に供給できる能力はないと私は理解しています。それだけ製造する能力はあるのでしょうかけれども、炊き出しということも含めてできる能力はないというように理解していました。実際にできるのかできないのかを含めて、今回見直して、新しい学校給食共同調理所で 1 回当たり 7,000 食を供給できるように整理をしたということだと思います。

(プレス空知)

地域防災計画は昨年度までのものを修正したんですよね。今の見解によると、昨年時点の数値を圧縮して修正していてもよかったのではないかと思います。新調理所が稼働した時点で、それに併せて修正する。タイミングとしては、地域防災計画の実効性を考えたときに、もし万が一、新調理所が稼働する前に何か災害が起こったときに提供ができない。なんで？実は…となって後手なのかなと思いました。

(市長)

この点については、11,000 食は無理だと思いますけど、そのときにはできる範囲の能力をどう活用するのかということがありますので、それはそれで残しておいたと。ただ、今後 1 カ所にまとめることによって 7,000 食を確実に確保できますし、これと併せて民間、例えばイオンさんとかセブンイレブンさんとか流通在庫で飲食の提供を受けることになっていますので、災害が起きたときにはこれらを複合的に活用して対応に当たると。

また、発災直後には非常食で対応すると。このようなことを組み合わせてやります。計画に書いてあることをその都度直せばいいじゃないかというご議論ですけれども、もし仮に直してない段階で発災したとしても流通在庫と今ある機能をどう使うのかということについては相応体制は取れた、というように私自身は思っております。

ただ、より炊き出し機能に特化した、例えばお米や水の備蓄、電気がなくても炊飯業務ができるとか、そういった防災機能を備えたのが新しい学校給食共同調理所ですので。一定の条件がないと前のところは動かせないというのが事実だったと思います。

(プレス空知)

不確かな 35,000 食に対して今回は確実な 7,000 食ということですね。

(市長)

発災したら非常食で当面对応する。それから、新しい調理所での炊き出し機能、さらに流通在庫、というように複層的に避難所等の運営や避難者に対する支援に当たります。こういうことで整理しているところでございます。

(プレス空知)

会議で委員さんたちからその部分へのご指摘が全くなかったのです。

(市長)

ここの説明は何て。

(総務部長)

あまり説明してなかったです。詳しくは。

(プレス空知)

新調理所に炊き出しを集約したのでそれに見合う数字に修正しました、という程度のご説明だったかなと。計画を見たら減ってますので、誰か一言くらい何かあってもよかったかなと思って、今聞きました。ありがとうございました。

(北海道建設新聞)

市役所庁舎の改築で、水道庁舎はどうなりますか。

(市長)

水道庁舎については、一体型で整備するような方向で検討を進めています。

(北海道建設新聞)

ということは、この現水道庁舎を壊して全部新しいところに集約すると。

(市長)

はい。

(北海道建設新聞)

それは基本設計がまとまるときに正式に表明するのでしょうか。

(市長)

そうですね。

(総務部長)

今、ゾーニングの真っ最中ですので、もうしばらくでその結論は出るかなと思います。

(北海道新聞)

すみません、コンクリートブロックの関係で一つ。

不適になっている競馬場のブロック塀を今後壊すとのことでしたが、いつ頃でしょうか。

(市長)

既に町内会等との協議を進めておりまして、その協議と業者への発注が整い次第、速やかに壊すということになっております。

また、あそこはかつて競馬場で厩舎部分を囲むように塀があるのですが、今は全く使っていない施設ですので、安全対策・防犯対策も含めて、一定のものを速やかに確保したいということでございます。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)